

“NIDS NEWS”



防衛研究所企画部企画調整課 (03-3713-5912)

..... 2016年6月の主な出来事

《第63期一般課程》



6月は講座「日本の防衛」を実施したほか、政策シミュレーションの一環として、宮川情報本部長による「インテリジェンスと危機管理」、高橋統合幕僚監部総括官による「我が国の各種事態への対処と防衛省・自衛隊」、森本拓殖大学総長（防衛大臣政策参与）による「安保法制と今後の日本の安全保障」及び伊藤東京大学生産技術研究所客員教授による「日本の危機管理」と題した講義、また、特別講義として、河野統合幕僚長による「自衛隊の統合運用」、國分防衛大学校長による「中国情勢と日中関係—現状と課題」及び黒江防衛事務次官による「日本の防衛政策」と題した講義をそれぞれ実施しました。

また、5月28日から6月12日までの間、国外現地研修を実施しました。この現地研修では、インドネシア・ブルネイ、中国・韓国、ドイツ・英国、米国の4個研修団を編成し、計7カ国を訪問しました。研修間、軍関係者のみならず非政府機関の研究者と意見交換を行ったことは、我が国の安全保障政策を広く説明する貴重な機会であったとともに、訪問国の安全保障政策や軍の現状等を理解する上で多大な成果となりました。また、訪問国の国防省や軍教育機関、各研究機関と防衛研究所との人的交流をより深化させるという面でも大きな意義がありました。

国外現地研修終了後、一般課程教育の集大成として政策シミュレーション演習を6月13日から

17日までの日程で実施しました。国家安全保障局、防衛省、外務省、米国等のプレーヤーに分かれ、東シナ海におけるグレーゾーン事態の想定下で国家レベルの意思決定を学びました。

29日には修了式が行われ、鈴木所長から研修員に対して修了証書を授与した後、研究論文優秀者に対する表彰及び留学生に対する褒賞状を授与しました。鈴木所長による式辞に引き続き、藤丸防衛大臣政務官による訓示（1頁写真）、河野統合幕僚長による祝辞をいただき、研修員幹事（工藤1等海佐）による答辞をもって終了しました。

修了式のあと、研修員は防衛研究所職員に見送られて第63期一般課程を修了しました。

《パキスタン国防大学とのSOI署名式》



6月14日、「防衛研究所とパキスタン国防大学との間の交流及び協力に関する意図表明文書」（SOI）の署名式が防衛研究所で執り行われました。鈴木防衛研究所長と、パキスタン国防大学校長ナジール・アフマド・バット中将の代理として、ファルク・アーミル駐日パキスタン大使が署名を行いました。アーミル大使はパキスタン国防大学の卒業生でもあります。

パキスタン国防大学は1971年の創立以来、国防省の最高教育機関として上級将校、公務員、国内民間企業人及び外国の将校に対して、政策立案・遂行レベルでより高い識能を付与することを任務としています。また、国防大学隷下の戦略研究所は国家安全保障戦略・軍事戦略に関するシンクタンクとして機能しています。防衛研究所とは、学生の国外研修団による交流、研究者間の研究交流、ARF国防大学校長等会議やNATO国防大学校長等会議等の国際会議の場における交流等、広範囲にわたる交流を実施しています。このSOIにより、パキスタン国防大学との間の相互理解の拡大、研究・教育分野での協力強化が期待されます。

《日米韓三極戦略対話・日米防衛研究交流》

6月21日、韓国ソウルの韓国国防研究院（KIDA）において日米韓三極戦略対話が開催されました。本会合は、防衛研究所と、米国国防大学国家戦略研究所（INSS）及びKIDAの3者が持ち回りで平成16年度より毎年実施しているもので、3カ国の安全保障分野での協力が進展する中で、アカデミックな議論と政府間の協力・調整との連携を図るためにも重要な枠組みです。

KIDAが主催した今回会合には、防衛研究所からは片原特別研究官（国際交流・図書担当）と阿久津主任研究官が参加しました。北朝鮮問題、南シナ海情勢、日米韓3カ国協力の課題が議題となり、金正恩体制の安定性、北朝鮮の核・ミサイル問題、日米韓・日韓の防衛協力の在り方等について率直な議論が交わされました。

本会合と併せ、20日にはソウルで防衛研究所とINSSとの日米防衛研究交流が実施され、北朝鮮問題、中国の対外戦略、米大統領選挙後の日米同盟及び日米韓3カ国協力の課題等について活発に意見を交換しました。

《NATO軍事委員会委員長の来訪》

6月7日、北大西洋条約機構（NATO）軍事委員会のピーター・パベル委員長（チェコ陸軍大将）の一行が防衛研究所を訪問しました。鈴木所長への表敬では、パベル委員長はNATO国防大学やNATO司令部と防研との交流拡大を歓迎し、日欧が「法と秩序」という価値を共有していることを重視する点を確認しました。続く研究者との意見交換ではロシア、中国、北朝鮮を中心とした国際環境につき検討し、日欧連携のあり方を模索しました。



《中国南海研究院長の来訪》

6月23日、中国南海研究院の呉士存院長を代表とする、同院及び中国の大学研究者8名が防衛研究所を訪問しました。一行は笹川平和財団と南海研究院の共催会議参加のため来日した機会に防衛研究所を訪問したものです。鈴木所長への表敬で呉院長は、南海研究院と防衛研究所との学術的な関係の構築に期待を寄せました。その後研究者との意見交換を行い、今後も率直な議論を続ける必要性で認識が一致しました。



《米国務次官補の来訪》

6月29日、フランク・ローズ米国務次官補（軍備管理、検証、順守担当）が防衛研究所を訪問しました。大西副所長を表敬した後、ローズ次官補は、防衛研究所の研究者に対しオバマ政権における米国の核戦略についてブリーフィングを行い、現今の世界の状況下での核抑止の必要性と軍備管理の課題等について意見を交換しました。

お知らせ

防衛研究所は平成28年8月に新宿区市ヶ谷へ移転し、8月8日より新庁舎で業務を開始します。移転後の連絡先は下記のとおりです。

162-8808 東京都新宿区市谷本村町5-1 防衛省防衛研究所
 電話：03-3268-3111（防衛省代表）
 03-3268-3111 内線：6678（企画調整課直通）

アクセス方法など詳しくは防衛研究所ホームページ（<http://www.nids.go.jp/>）にてご案内いたします。

・・・・・・「史料紹介コーナー」・・・・・・

平成28年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 ^{つかはら にしぞう} 塚原 二四三 1887~1966年 《

—福井県出身の海軍大将—



元山海軍航空隊戦闘詳報 (登録番号: ⑤航空関係-戦闘詳報・戦時日誌-6)

塚原二四三大将は、明治41年11月、海軍兵学校(36期)を卒業後、昭和16年9月10日、フィリピン・マレー攻略の上陸支援部隊である第11航空艦隊司令長官に就任します。そして昭和16年12月8日の開戦後、塚原中将の率いる第11航空艦隊はフィリピンへの奇襲爆撃やマレー沖海戦で大戦果を重ねます。なかでも昭和16年12月10日、第11航空艦隊の元山海軍航空隊、美幌海軍航空隊、鹿屋海軍航空隊の中型陸上攻撃機75機は、日本軍のマレー半島上陸を阻止するため出撃した英国極東艦隊主力の新鋭戦艦プリンス・オブ・ウェールズ及び戦艦レパルスをマレー沖で撃沈します。この史料は「元山海軍航空隊戦闘詳報(馬來沖海戦)」で、戦艦に対する航空機の優位を実証したこの海戦の記録が綴られています(他に「馬來沖海戦参加搭乗員手記」(登録番号: ①日誌回想-540))。



横鎮第一特別陸戦隊戦闘詳報 (登録番号: ④艦船・陸上部隊-戦闘詳報・戦時日誌-350)

塚原第11航空艦隊司令長官は、開戦翌年の昭和17年1月7日、指揮下の海軍空挺部隊・横須賀鎮守府第一特別陸戦隊(通称号: 第1001部隊)に対し、セレベス島の敵飛行場を制圧し、同島北端のメナドを攻略するよう命令します。これを受けた第1001部隊司令の堀内豊秋中佐は、1月11日に2個中隊334名を、12日には後続の1個中隊74名を輸送機に分乗させ、ミンダナオ島のダバオ飛行場を離陸、セレベス島に落下傘降下後、海岸から上陸した佐世保鎮守府特別陸戦隊と連携してメナドを攻略します。これが日本軍最初の空挺作戦で、陸軍のパレンバン空挺作戦の成功をまって、2月15日に同時発表されました。この史料は「横鎮第一特別陸戦隊戦闘詳報」で、メナド攻略作戦の詳細が記録されています。

《お知らせ》

防衛研究所移転に伴い、平成28年7月4日(月)~平成28年9月23日(金)は史料室が閉館となります。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。
 防衛研究所企画部企画調整課
 専用線: 8-67-6522、6588 (史料紹介コーナーのみ6668)
 外線: 03-3713-5912
 FAX: 03-3713-6149 ※ 防衛研究所ウェブサイト: <http://www.nids.go.jp/>